

## 新しい水稻奨励品種 「にじのきらめき」の特性と栽培法

### 一 はじめに

県内では、主食用米としての水稻が約一万五千ヘクタールで作付けされており、その内、九割以上の面積で県採用の奨励品種（県内に普及すべき優良な品種として県が決定した品種）が栽培されています。本研究所では、県独自に育成した系統のほか、国や他県の研究機関が育成した品種・系統から、本県での栽培に適するものを選定する、奨励品種決定試験を行っています。現在の奨励品種に、気候や耐病害虫性の変化などの影響で問題が生じ、新品種への変更が望まれ、各種特性に優れた品種が新たに選定された場合に、奨励品種の改廃を行っています。

今回は、「キヌヒカリ」に替わり新たに奨励品種に採用された水稻うるち品種の「にじのきらめき」について紹介します。

### 二 「キヌヒカリ」の栽培上の課題

「キヌヒカリ」は、早生の水稻うるち品種であり、水稻裏作で栽培される野菜後作の残存肥料が多い条件下においても倒れにくく、食味が低下しにくい。そのため、冬の露地野菜栽培後の作付けなどで利用されてきました。

しかしながら、高温による白未熟粒（高温などにより、玄米へのデンプンの蓄積が不十分となり、玄米の一部が白濁した状態の粒）の多発により、米の外観品質が低下しやすい点や、穂発芽（収穫前の水田にある時点で稲が発芽してしまう現象。発芽すると商品にならない）しやすい点が問題となっており、近年の作付け面積は減少していました。

そこで、「キヌヒカリ」と同様に多肥条件での栽培に適した早生品種で、高温でも米の外観品質が低下しにくく、穂発芽しにくい品種の選定が求められていました（図1）。

### 三 新たな奨励品種 「にじのきらめき」の特性

新たに奨励品種に採用した「にじのきらめき」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が、多収で高温登熟耐性が優れる「西南一三六号」（のちの「なつほのか」を母に、縞葉枯病抵抗性を有する「北陸二三号」を父として交配した後代から育成し、平成三十年に品種登録された水稻うるち早生品種です。「にじのきらめき」の主な特性は、表1のとおりであり、「キヌヒカリ」

**「キヌヒカリ」の弱み**

- ① 高温に弱く外観品質が不良
- ② 穂発芽し易い

↓ 改良

**「にじのきらめき」の強み**

- ① 高温に強い
- ② 穂発芽しにくい
- ③ 短稈で倒伏しにくい
- ④ 多収

図1 「キヌヒカリ」の弱みと「にじのきらめき」の強み

	成熟期	稈長	倒伏	収量
キヌヒカリ	8/26	77cm	微	54.2 (kg/a)
にじのきらめき	8/26	66cm	無	60.9 (kg/a)

	品質	高温耐性	穂発芽性	食味
キヌヒカリ	やや不良	やや弱	やや易	良
にじのきらめき	やや良	やや強	やや難	極良

※所内試験における、早期標肥栽培での4年間（平成29年～令和2年）の累年平均値。  
※移植日は4月20日前後。

表1 「にじのきらめき」の主な特性

### 四 「にじのきらめき」の栽培法

#### (一) 施肥量

ここでは、全量基肥肥料（全層施肥）を用いた多収栽培を前提とした施肥量の検討結果を紹介します。十アール当たりの窒素施用量を、十・八キログラムから一・八キログラムずつ増やして収量を調べたところ、単位面積当たりの籾数は増加するもの、収量は増加しませんでした（図4）。

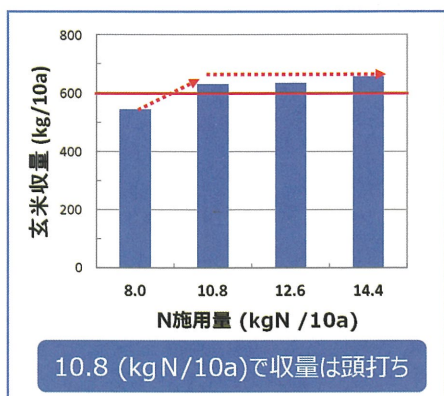


図4 窒素施用量と玄米収量

#### (二) 栽培密度

ここでは、水稻の低コスト・省力栽培技術である、疎植栽培への適応性の検討結果を紹介します。

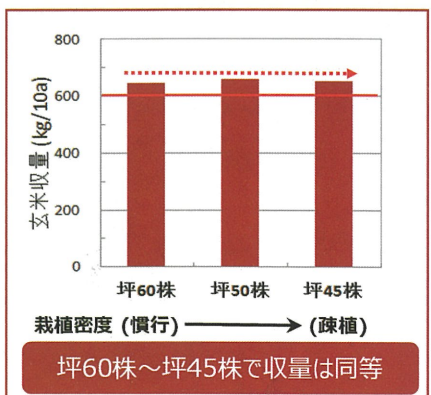


図5 栽培密度と玄米収量

#### (三) 栽培上の留意点

「にじのきらめき」は、穂発芽性があり「難」で、種子の休眠が深い傾向があります。浸種時の積算水温（水温×日数）の目安は、百二十程度程度とさせていただきます。（例：水温十五度前後の場合、「にじのきらめき」は「コシヒカリ」より一日程度、浸種時間を長くします。）

### 五 おわりに

「にじのきらめき」は、令和四年産から農産物検査法に基づく産地品種銘柄（選択銘柄）の設定が行われる見込みであり、県内で広く栽培されることが期待されます。また、今回紹介した栽培法等を踏まえ、JA静岡経済連及び静岡県米麦協会と協同し、栽培層を作成したので、御覧になりたい方は各JAMまでお問い合わせください。

#### 連絡先

磐田市三ヶ野七七一  
静岡県農林技術研究所  
水田農業生産技術科  
E-mail: agrisuden@pref.shizuoka.lg.jp  
TEL: 0538-33-6678

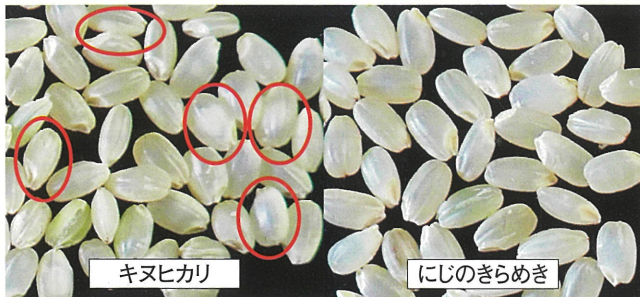


図3 「キヌヒカリ」と「にじのきらめき」の玄米の外観

「にじのきらめき」は「キヌヒカリ」に比べ、白未熟粒（○：でんぶんの蓄積が不十分な粒）の発生が少ない。

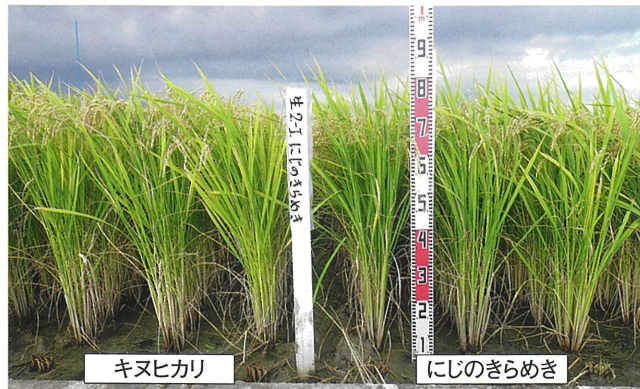


図2 「キヌヒカリ」と「にじのきらめき」の成熟期における草姿

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所  
水田農業生産技術科  
研究員

加藤 泰久